校正

北窓瑣譚 前篇 三

15
1637
3

門イ8
號1637
巻3

昭和41年12月20日
原安三郎氏寄贈

早稲田大学図書

北窻瑣談巻之三

梅華仙史橘春暉著

一人の所に死るハ孤とも理也出さるし亦ハさるあり悪声一たび世に流布しても死るものあり。善きものを云ひ婦人そハ盛徳の事ゆゑ。おし通誉ありとて流く害なし所しる男の居しる。鈴乗の巷ふれる死幼年の時名高く公よりも褒美し給ひ久しく。年長しく後も撮切なる又博奕あるとく妖して美の常人よりなる事切の多びるるれむ。其里の左氏あと公の答をを忍れくとかく笑見を加へ

ふしぎ天よ実入まぐと風説をしがいなであるしや。是ホの

まかはりて男くじ。善事を称誉もすぐるはあぶ
し。人始一所ばかりあるべしよく孤一所事なくあるといふ古語
ル男に合されし
一我父母絶身安穏ましく衣食の労無ましハ推ぶ庇蔭あり
しや古主君の庇蔭あり。我身何きの地より出く何れの
家より成もせしや。古主君の庇蔭あり。我親屬安穏ま
祖先の祭り絶ざるハ修人ハ庇蔭なりや。古主君の庇蔭と
我身何きの度か学び何れの人を師とし筆硯し親し
むやふあるしや。古主君の恩山先生を師とし米穀を食
て幼年の時ふ乃はを経学ばし事あり。又古主君の庇蔭

あり加く男に生れも古主君の厚恩我身生涯を更あり
子孫まても忘却まはじ為るあり出ざる乃事新ル
男れとる孫の為ると加く絶ざるなり
一漢の代あるハ祖税を免る。粟米四六乃法といふ
乃嘉量あるハ一斛入乃斛と六斗入の斛と一つ斛ハ
てうして作りたるものなり。四六乃法とハ兵粮用意米あと
久しく貯ふる米を粟米取入る時ハ一斛ハ又苟分の
扶持米あるを米ハ舂りて入る。時ハ六斗なり。これ粟
一斛を米にて米六斗ハなる故なり。日本も王代乃頃ハ
法を用られしを今ハ禁裡王殿寮の官人乃下級米

を云初り所よりと原ふ。一石といふ處へ米五斗九升を細む
るなり。是六斗あれども一升ハ雜費ふ引とありとぞ。余く
おゝ知る人よ主殿寮の下司南山城みくの系村より米を
とるふ事ゆしと語きり。近世武家ふ々一石といふ處へ米
四斗を渡すことなり。是戎四ツ物成といふ。ふくゝゝめしで
乃多少ハ世の苛法といふ事
一古人源氏物語ふ於ても其文章ハ殘ふ多く称美せり
人毒ふ。ふ年の歌ふ毒下ふ拙しとそし給る人多し。今
思ふよ此物語乃事ハ又ふ一体の風ふて淡泊悠長成
をもつとも風流の気象ふ富て餘情多し 附ふ歌ふく

ハ源氏尚屋の昂作ふ仕立ふ成れむかく成ふ成
此物語乃事を他ふ撰集なるの如く倫理ハ頼ふ
ふ成といふ也
一漢学の文章ハ才ふ富とくゝ。学問の力ふ富くゝ書ふし
是ふ出ふ成る画ふくゝ結ふ成る。ふ薄くて久しくふ成ふ足
らずと同し理ふて。ふ厚く作るの金粉の地力あ富て也で
来ずふ成とあり。文章ハふて系し。但しふし如何成る
ハ全篇ふ成る一句ふ成る短く出ふ成し。ふ上なりふけふ成る所家を惜
みく金玉のごとく用ふ乃し。汪道昆の文ふ成る所家ふ少し漢書ふ
多ふ成ふ。ふ成く拙ふ成る文章乃所家多ふ成ふ極て用ふ難ふ

多くは苦し。論語あと格あり脚字多けれども是も言語應對
乃摸擬を。傍より生じ出ずるに体制あれば多示彼
多先なり。是も文章の変体なく常法のうちなるべ
し。用ひ新の書まくも孟子あり文章の正格とせり
一和文はお静なる嵩ふ獨り用ひ對したる打ちぞ。年こ
ろし姉しうしるれ無し加ふ事も先ひ法をて思い出ず
ろき。富貴あり人の事ふ情ふ作るもの多先きてこの境
ハ知らを所作ふ乃し
一安藝国廣嶋城下辺ふパタくといふもの所なく神奠の物迎
もものしより何者なるを知る人なし夜法人家恵外據充あ

とふ者なくて高と近くパタくと音を窓を窺ふく多ふ戸
地開先れば。五六十も遠の者方とゆくくパタくといふ
音。いつも如此なれば法ふ何物なるを知らとあしと彼國乃
人壽安物作りまりた
一余天下を漫遊して所所能く情ふ乃名山岱乃。僻遠の地
ふ寄絶乃山ル多々れば。皆他岱作りて世の同好乃人ふ
せんやと思ひしが。既ふ古賢乃他を作る山くも多々ば。先法
家の詩文集ふ就て山くの他岱撰乃出し集えて狂笑する
山所くば。自らも他せんすをと。近先法乃尚乃るふ作ふく
ふく集めぬるふ。又人乃ふ岱笠ば。京武港井平左衛門山志五

て既に多く集めなりといふぞ。余が集めたるや先より
近年ハ浩井子ハ主人に従ひて浪花に来り病に発せ
ましてハ名山往るも如何なりしや
一徂来の書ハ韶光の頭に無他の書家の及ざる所に一所ある也。又
頃雲山惇信廣澤なども皆明代の書風時運に叶ひ
て行はれし折節なれバ。徂来独り時運にハ引きかへて一家を
成せり。又天狗説など黒墨帖より出来りとはいへど其中に
ざれども。唐土の墨帖の中にまじりて恥るとなし。其本質ハ余
の楷書にして加へたる。只韻致の備はる故なり。仁斎先
生ハ気韻ある東涯先生書材餘りあるべく其趣ハ余る

何しても脱腹中の墨ある故なるべし。又化近世ハなくて書を
見し近元氏の芝蓉篆隷ハ二体ハ一種の風韻ありてよく
好易からず
一印章篆刻の一技。近来好に務る人多し。其雅趣気韻ハ〻〻
又も秦漢の古印より恥ざる者あし。文雅の技の漢土の古代
のもの遥かに及ぶべくもなし。只篆刻の一技のみなり。其他書画徒
元文より明清よ経世界を隔てあり
一本邦の詩ハ享保以後の作家本邦の古昔に備はりて美く
然以後にハ是まで多く八開闢以来の盛なる時とにて
なし。秋玉山なとて五絶の一体ハ吾ゆゑて日本開闢の一人也

と自負せしれしとぞ。誠に他人より見るかもさぞ嘆かるべく
道言ふハ一向ぐるる歌も近代に成るべし。和歌も近代に成るべし。書も繊とも言ふ
ひ盛あるるなれども。古人のさまなるべくもなくて。しかし上一変
ともあるべ道ふあるるの域ハ遠き類なり。能信ハ芭蕉の時
成実ふ盛ふしくぐる極るあるべとしてしかし以後といつぐ
ものなに出る時ハ一向じとして言えや
一迫を以秋玉山が筆跡を見るふ。明人の区域を出るる所
ハ是ことしくども。ものの雅趣俱集法の一人あるべし
一書ハ古今二王をもく至極とする事と復醫を容るべうる書
無るふ近世共向上の論ハ時代ハ宋明ものの如隷のくるる極し

しるふ所二王ハ不ふ論くぐとして。日夜辛苦して十七
或ハ聖教序等を摸擬する人多し。今ものの書を見るふ形
ハ俄ふ墨卒の十七帖聖教序ものれども。神彩気骨風韻
ふ有ものくもの地を拂ふて見るこ。多く活気迫来ら鳥石廣
澤の業ふ不及事多くあれば。何ぞ明人を笑ふや義ふ智
永あるハ魏美唐人の出ハ深く学ぶ取付為死道筋絶て無
ものもいまだ見られども。中くハ易見るふ一向ぐ。宋人の気魂
ハ近来ものく髣髴と其区域を霸ふ似るる人見るも
見る無れども是も多ぶ叶ものの地ものて。歳を画て物ふ新を
ふるの多し。只明人ハ時運移る教ものや時代近ものや

徽仲枝山隔園解伸玄宰あと寺侍ら各格あれしも
乃人も学びを皆あり法多し。余も亦あと明人よ不満あた
もの〻遠ら所乃学ばい明人の區域をもらこと能不
一人ハ天地の益をまるをまべし世学しし字有
人を医をおけをを賤しめども今太平の御代ら
生き〻匹夫の身医業を外ましく何吏をおしく
人の憂を救ふ吏ならんを思ふ
一隠居ハ園大暦乃十八巻成汀く兼好法師観應元年二
月病にかゝ類。上皇学ら典茶頭和気清えをしく伊賀玉ら
越く療治せしを。米穀三千石を賜ふ。伊賀守播磨衆使を

て養を二月十日く兼好法師生死無常の急あるを菜門乃好
ふ雷あるを菜戒不服米穀を近村乃民よ絶せり云く二
條良基公年来ハ和歌乃友あるしを病を問人が為うひ
そふ伊賀玉に越の。二月十五日兼好伊賀玉國見山々麓
国井之庄ハ寂せり　上皇を上湿勅云く　同廿五日米穀五
千石鳥目二千貫を賜ひ田井庄ハ墓を築紀遍照寺乃僧
ハ命し伊賀玉ら寺に葬事を勤しむ同廿七日権僧都を贈
らふ　春暉四ふよ。兼好ものを吉田の祠官ものく格式の貴
人まで一ものを又をを戒玉の時ものく　強く愛時者あれど
病に加りて後のるものを遥分の事あるを。を虚実乃

し給ふ人みな弓しみ園大暦八性しむ爲えとかうをと三
しさるこもるをりや
一又塩尻ハ玉ハ格ゑの物まり水精硼硝陽砌瑠璃の如き真
乃玉ハ中ゝぞ信景往年玉帯を見るしふ色白ゝしく
水精のゝゝ透明あしぶ霞戎陽て空戎色むがゝし
其多あること如くあしよりあ有職者云是ハゴクといふ
玉ゝ紋色色ゝ一の玉鬼形獅子唐竹唐花多かりとそ
春勝ゝ郎ゝの珠玉ゝ日本みも多く産れどゴクゝ日本
ハ産る所あしと兼葭堂あと物語あ是京都の宮家
ゝ玉帯皆此ゴクを用ふ大家ハ云るあるこの玉去ハ

御家ハ長サ六七寸幅四五寸絣ゝ質ハ玉美ハ玉絶を
彫ゝ海真ハ精密殘極ゝ拙毎食拝見しなを何方ハ
ゝ玉帯に用ゆるゝ。彫刻の細工精密を極めるゝの也
玉を切事泥ゝ如くなるゝ。此細工ハ絶しがしと又
。皆唐土の物なりとゆの何の代の細工なりしや
一塩尻ハ海潮乃満干ゝ吳ゝ大阪より伯後乃白石乃
浦ゝ元五十余里ゝ乃海上ゝ海ゝ周防乃ゝ
ゝて四十里海潮上ゝて高ゝ烈ゝ是より能前の山上乃
坤ゝ四拾里潮下ゝ満是より西肥前の樋嶋ゝ乃ゝ八十余
里潮又上ゝ満ゝ又長門乃ゝ洋乃嶋ゝハ海地乃方ゝ

ことを也と。玄昭拾ぶるゝ大洋ゝ出るゝ潮の東西南北を知
し侍ふまゝかゝりを唐土瓊海の潮あゝ一月の中ゝ上十五日
を東ゝ下十五日々西ゝなることを是ハ本寺中の最寄あるゝ
なり松前の海の潮を常に大河のゝ三筋の急流
海中ゝ流るゝ東ゝのゝ薩ゝ又是ハ又寄りゝ
一徒然草ゝ伶人能秋横笛を論ずゝ五の穴を所いふゝ干の穴
ゝ皆穴ゝ律を蕩て一律ぢゝを無て穴ゝ五の穴ゝ
上ゝ間ゝ調子をゝ調ゝ調ゝ音をゝ上ゝ
を無ゝ吹ゝ穴を吹時ハ必ゝ音しのはゝなくぬ時ハ
物ゝ合ゝず。吹ゝと難しゝ事を載ゝ是能秋が律

ゝ呂ゝ穴ゝ教和声ゝ知ゝ教あゝ。横笛ゝ双調ゝ
調を記ゝ順ゝ和声を求ゝ下ゝ為ゝて止ゝ。ゝ五上
の穴ゝ呂ゝ一律をぬゝみゝ鳥瞳を穿ゝ横笛一管ゝ調
ゝ法毎ゝ楽器ゝ成ゝ。又中ゝ穴ゝ呂ゝ二律をぬ
ゝ穴ゝ穴ゝ穴ゝ穴を含ゝ吹ゝ。ゝ一越ゝ真声を知ゝ
能秋が考ゝ儀ゝ荒涼のゝ。又景茂が呂律の物ゝ叶ゝ
ゝ人ゝ乃ゝ。益ゝ失ゝ。ゝ律呂ゝ
ゝ言ゝ。ゝ能秋ゝ上ゝ向上ゝ論ゝ
ゝ人ゝ歌ゝ。ゝ業ゝ其事ゝ。
ゝ人ゝ歌ゝ

一俵前乃儒士湯浅子祥が常山紀談とゝ書ゝ加藤清正寒
天ゝ朝鮮渡海乃ゝ戎らゝし注ゝ王正美ゝ待を引ゝ風雪
面疑裂凍粘鬚有声とゝ迫しと出しが余ゝ賀列手取川
乃風雪ゝ過ゝ能霰堅如鐵寒風利似刀と作ゝしゝ四合さし
一同書ゝ深田直家俵おゝ城ゝくゝの軍ゝ従兵馬場十助鎖
炮ゝくゝ右ゝ擦り臀へかけゝくゝ打通されきゝ。狙ゝ
とゝいゝくゝ進ゝくゝゝ又背割具足ゝ右の肩ゝいゝり胴の中を臀
ゝくゝ打ぬゝき因ゝくゝゝくゝ倒ゝぬ。鄙筆ゝ事を記ゝけゝくゝ計ゝぬ
ゝゝ俵人を快ゝくゝ十助語ゝくゝゝ八。鉄炮ゝ所ゝを記ゝ時大太ゝ袋
ゝ実通ゝゝゝくゝ。物乃色皆真赤紀の色ゝ赤ゝ成ゝ

と俵ゝ強通ゝくゝ農とゝあゝ七十七才ゝくゝ病死せり
一筆ゝむゝゝ義ゝ乃ゝゝゝ弾ずゝゝゝゝ。後藤庭訓ゝ奇文
ゝ御筆を弾ゝゝゝゝ右の御手乃ゝを引ゝゝゝ。筆ゝ
ゝ乃御手物ゝ弾ゝゝゝゝゝゝゝ板ゝ。後ゝ御くゝゝゝ
一。又大隠ゝ芦川行幸筆を引ゝ人ゝゝゝ作ゝゝ指ゝ
入ゝくゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ是者ゝゝゝゝ四合ゝし
一三光院殿御院色紙寸法。大ゝ竪六寸四分。小ゝ竪六寸ゝ
横ゝ大小ゝゝ五寸六分。短冊寸法貴人ゝ長サ一尺ゝ寸八分
幅二寸。平人ゝ長一尺ゝ寸五分幅ゝ寸八分ゝゝとゝ
一御神楽之次第

一庭燎　二榊木 元未　三韓神 元未
四早神 元未舞アリ　五蔦桃 元未　六篠波 元未
七千歳 元未　八早歌 元未五ツ舞アリ　九星 三首
吉々利々 元未　得銭子 元未　木綿作 元未
十朝倉　其駒 元未舞アリ

一國絡ふ載せ〻ふ周景王の鑄作りし無射律乃鐘唐の孔頴達の説ふ。此鐘在王城。鑄之。敬王居洛陽。蓋移就之也秦滅周。其鐘徙於長安。歴漢魏晋。常在長安。及劉裕滅姚泓。又移於江東。歴宋齊梁陳。時鐘猶在。魏使魏收聘梁。收作聘遊賦云。珍此淫器。無射在縣。是也。及開皇九年平陳。又遷於西京置太常寺。時人悉得見之。至十五年。勅毀之。春暉曰是固淫器然而考古律之法物無過之者。勅毀之可惜之至也。而又怪晋荀勗考古律。不言及此鐘。不知孔説果是否

一漢土律は家黄鐘の律を倫とすれハ勿倫く幸邦為好ら徒然草ふ黄鐘律の鉤鐘を偽せしうり後。ま〻ひるをいふ人いれ〻〻真乃黄鐘律成聴ひること弱く又其律ハ鉤鐘を鑄うこそうる人力ハ付ふ〻ぶ〻うざるものとふふてさ〻ふ〻余天下ふ漫遊しく〻数多の鐘を〻〻ふ黄鐘律ふ近ち鐘〻ふ拂ふり。ハ霧満寺の鐘古物ふりと〻〻実改四年壬ふ乃玄彼寺ふ〻ふ〻ふ〻ふ大坂天満の北平里絆ふ長柄村乃藩

村玉分寺といふる小村の禪院ハ何年か音真の黄鐘律ニ大サ
口の経ハ曲尺ハ一尺九寸五分厚サ一寸五分鈕頂ハ傍ハ管
ハ内外ハ透キり銘文二ツハ一ツハ鑄銘ニ一ツハ彫
銘ハり鑄銘ハ

太平十年二月日○寺揀梁元○○
○金鐘入三百斤　長二尺四寸二○

如此ニ五六字ハ減シ
尺ハ此銘ハよりて北燕の馮跋太平十年戊午の鐘ハり
漢土南北朝ハ時分ハ古律ハ亡びし時ハ物奥ハ
帝代ハ陪物ハり此銘一説ハ太ハ字を天とよりて聖武天皇
の時ハ物とハ此鐘と同作の鐘三井寺ハ一ツハ智
證大師唐土ハ統ハり　將来の物とハて漢土ハ物ハり

ハり彫銘ハ六七百年ハ長門玉ハ彫ハり
門ハ玉の寺ハ名ハ尺ハり其後ハ寺ハ奉シて此鐘ハ
土中ハ埋ハ有シ哉今ハ二百年ハ江ハ出ハ玉ハ堤
普清ハ時ハ堀出シ玉寺ハ納ハ玉ハ山霍満
寺建立ハ時鐘ハ寄附ハ　今此寺大坂大和玉
とハ家ハ有とハて義ハ大和玉ハ持ハ住持ハ
ハ御ハり
一説ニ年三井寺塔中微妙寺開帳ハ時古鐘ハ　芙蓉紫
表ハり尺ハ銘ハ
ハ玉ハ借ハる

大平四年 壬子 日本 允恭天皇 元年也 晉 安帝義熙 八年也

大平四年壬子十二月日青龍寺

鐘百七十斤大匠作金慶則棟

梁六尺十四人垂長沈賢等

是鶴満寺の鐘と同しく北燕乃馮跋大平四年壬子乃作乃鐘なり智燈大師入唐八年唐の時より唐乃青龍寺より將來しなりとあれども。青龍寺北燕の時よりの寺なり。唐ハ跋ハ五代なり。此年六月十七日門人辻三清赤本年人松平六郎三十五人令し。之井寺ハ新たに鐘を足せしなり。

鐘ハ寺ハ[illegible]。前年開帳乃時ハ出せしも寺坊ハ[illegible]中の

鐘なりとて寺鐘なる寺坊金堂の傍乃宝蔵ハ[illegible]此

寶蔵の鍵頭りを財遷坊とハ。役者を財林坊と云。寶蔵の

封ハ一山乃封なり常ハ開かず[illegible]を仲さぞ。三十鐘を不足して

空[illegible]。財遷坊のお給りハ鐘の長二尺経り[illegible]尺六寸

五分。巾一寸三分ハ。[illegible]五寸五分唐青龍寺の鐘なり

智證大師ハ朝乃時渡[illegible]ハ[illegible]し物とぞ。此鐘ハ本黄鐘

律なりやいなとを吉を[illegible]編しなり

一北燕太平元年北魏の永興元年なり晉乃義熙五年なり

通鑑紀事本末九十八卷馮跋滅後燕篇云。褚匡言於燕王

跋曰。陛下龍飛遼碣。奮邦族黨傾首朝陽。以日為歳。請往迎

之。跋曰、道路數千里。復隔異國。如何可致。匡曰章武臨海。舟
楫可通。出於遼西臨渝。不爲難也。跋許之云云 昏暉按。高句
麗爲北燕屬國。馮氏之滅。二世馮弘奔高句麗。男女老幼八
十余萬人皆隨。此時三韓既爲日本屬國。則北燕貨物傳日
本之多。實有故也

一北史馮跋傳曰。跋飲酒至一石不亂

一北史藝術傳信都芳傳曰。齊神武之亟相倉曹祖珽謂芳曰。
律管灰術甚微妙絶未既久吾思所不至鄉試思之。芳留
意十數日便報珽曰。吾得之矣。然終須河內葭莩灰俎對試
之無驗後得河內灰用術應節便飛餘灰即不動也云云

一琵琶の書ふ三五要録といふ書あり。又三五中録といふ書
あり。胡琴教録あるも世間まれなり。此三出ハ稀なる
物なり。或人の説に三五要録和名抄二巻も真の古書にて
ハ乃全部十二巻ハ偽書なり。三五中録も古書ハ絶て今有
るものハ偽書なりとぞいふなるべし。伏見宮ふる二書とも真
の物を御所藏なりとぞ。深く秘し給へ人間に洩し給ふ
なとぞ

一頊僧云唐伯虎曰東坡赤壁一賦一洗萬古。欲髣髴其一絡。畢
世不可得也伯虎亦英才。而推奬如此。其必有以也。近世文人
至非之曰何等狗賦可謂大言不慚矣。余意赤壁即自汎賦

未者非耶云々春暉曰。亡友奥田仲猷。嘗曰。東坡文才絶倫如其赤壁賦。学之竭終身力不可得其髣髴也。仲猷為人豪放於詩文最其所長雖長編大作亦援筆立成自負才気少所推然而於赤壁一賦則極口賞之今聞伯虎論亦如此

一泰山集と云ふ土佐谷丹三郎重遠江戸乃浩川春海ゟ従いにしへふの日。宇師の語を多く録せる雑誌あり。宇ゟ人一昼夜之息凡二万五千許古人曰一万三千五百息可疑也云々

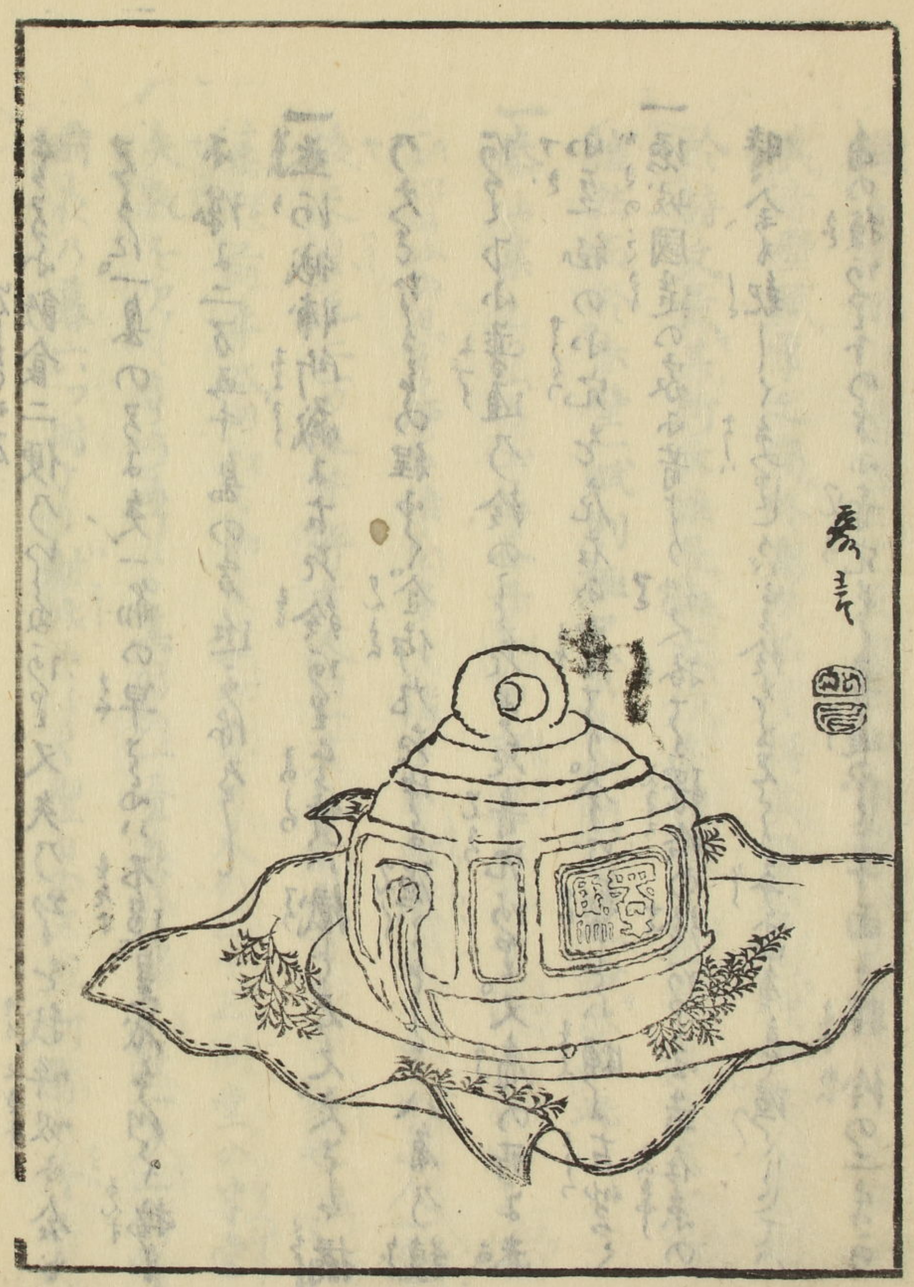
嘉暦前年太田松ら助と云幼年乃人の三十三間堂の半堂矢數を尺しるすしるしゝ其時の一夜後乃惣矢數一万二千許前夜乃暮六ツ時より射始めしゝ翌日の夕申刻前ゟ終るゝ

ゟ飲食二便乃ゝ〳〵ゟ一ツ乃ゝ。又矢乃出るを我呼吸ゟ合せ尺ゝゝに。一息の早さゟハ不逼。是我ゟ射ゝ拵る

ゟ誤ゟ二万五千息の方近ゟ歟

一並河誠所所蔵ゟ古瓦鈴ゟ貫ハ鐵と見え。大さゟ撮乃大さゟ有るゝゟの程中ゝ食俗ゟ仏ゟ中ゟ強ゝとして八角乃接ゟ乃ゝゟ乃ゝゟ普通乃鈴のゝゝゟ半ゟ青完ゟ乃。又扁の所ゟ赤ゟ至紅のゟ完を左右ゟ穿てり。今乃製とハ頗ゟ古雅ゝ

一源岐國造の家ゟ昔より伝ゝ拵る驛鈴の鈴ゟ乃ゝゟ玉造在系の時人ゟも親しく矢ゟ見ゝゟ鈴ゟ乃ゝゟ平ゟ四角まて強ゝとして八角の接ゟ乃ゝゟ下の方ゟ青完ゟ乃ゝゟ普通のゝゝ平面ゟ驛鈴の二ゟ乃



綱乃古色愛玩し寶ふ數千年の物あり。寶玉清亮殊更
ふ青々しく〳〵よく〳〵光澤。

玉造名古幸成姓名宮佐毎
く紳孫〳〵紳代より今ゝお續せり。特異成も好〳〵
奇成人あり成

一佐渡の國はかまいさちよかあり〳〵とゝふ曳ひり〳〵其氣
の中るとさろ大はきれ〳〵傷る此時は金瘡の如く縫
亦ハ膏藥など付ゝバ皆ゝ〳〵死るあり只石菖
根一味煎じて洗ふべしとなり又其まゝよ捨をく
時ハ數日よし〳〵愈るとぎ佐渡の外科本多雪伯

余り語り侍りし

一書法西長崎の神社ゆも驛路絵ゆ画とく写絵墨筆なり

しゆ。山伏乃持て錫杖の形れとく長た物なり。美製の絵

ゆや又天明年間河内国より掘出しなりとて書た紙乃腐れ

形しなる絵。多く持ありて貴し人の画ゆ。益河氏状又の

宮ゆ御後ゆ入まりしゆ。是も我家ゆ多くく叶ハざるものとて

優を下されて居きしとぞ。益河氏後ゆ物語ありた　言まも

何乃御用ゆの事なり

一清華といふ今宮系の名家九彩をいふ清華とハ北嶺の

顧之推が家訓ゆ出る字なるく。六朝の比名家た系柄をつくり

一浪花の加茂景範ハ和歌の上手なく学問も深く

沸ゆも称誉ある人なり。近年も色々れ歌書著述ゆ多し

山辺余彼人乃著述の和哥濱土産といふものを見しなり。物

公乃人和哥の舎なり。歌ふる事奏有益乃書あり。全体ゆ

ゆ志衣を紅しく大業會新業會ゆの時禁庭ゆて舞人

乃着ある服ありと見えた。絶ゆ數里なれとも浪華ハ糸ゆ

産ゆ多ぬ事ゆ。かゆゆ手近ゆ哥学者れ考く

倶ゆ。糸乃人も無学乃人ゆ知ることあり。小忌衣ハ祭服ゆ

なる友ゆ大嘗祭。新嘗祭。天神祭の時ハ礼禮ゆ預る人ハ美織の長袴

ゆく文官武官乃ちあく。皆小忌衣ゆ着ゆ事なり。和

ゆゑなきよ舞楽にのみなれ。舞人も若しく舞ふるなりけるよ舞
人の着たる服と限りなく覚悟なるハにのみ
一浪華天王寺の楽人秦西名著述乃書ふ楽道類聚とりて
出にのみ。古樂乃名我よく考てし出るなく。全外も楽にのばかる
事ゝ多くしく出集えしものなく珍出ありとりて。山陰先
生牧信りあるもしが。全体浪華にて一統せし
る組妻しくゝ多續はざるもしが。大体ハ人乃性知ゆゑ事を
多く載せるり巻數ゝ多なるなり。體裁拙あるべ頼しなる
ものゆゑ世ゝ思ふ。全家久しく秘しなるよりあく。世間ゝ多く稀
なり多く結字しく弘まるべ。作者の悦みなるんと思ふし

一天明年間。ゆや体前ふ屋載る村乃海中ゝ漁人の網ふ見
一ゝをはるり箋書の絵にて唐土元乃世の聖堂祭器ふ酷ひ
ゝ舊物ゝ多事ゝ文ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝと淡洲義物絵ゝ
一ゝ乃ゝ百年ゝ前ゝ乃ゝ乃ゝ海中玉嶋のあて様の形の
物ふ異多く付ゝを漁夫ゝ細少て引上なり。頂ふ乃形乃様
なりゝ山辺の酒瓶ふ似ゝ多ゝ取数ゝ乃ゝ多ゝ人ゝ多ゝ。ゆゑ彼
瓶ふ持なりて。酒にしく飲用しゝく。漁夫ゝ多ゝ彼酒瓶
ハ持なりく酒ふ二瓶ふかくんるを乃ふ。酒瓶乃多代笑ゝ
ふ無用乃物酒にのるゝゝ。ゆゑ論し合
ゝ一なるゝ。其ゝ乃ゝ何ゝ乃ゝ。作乃貝乃作

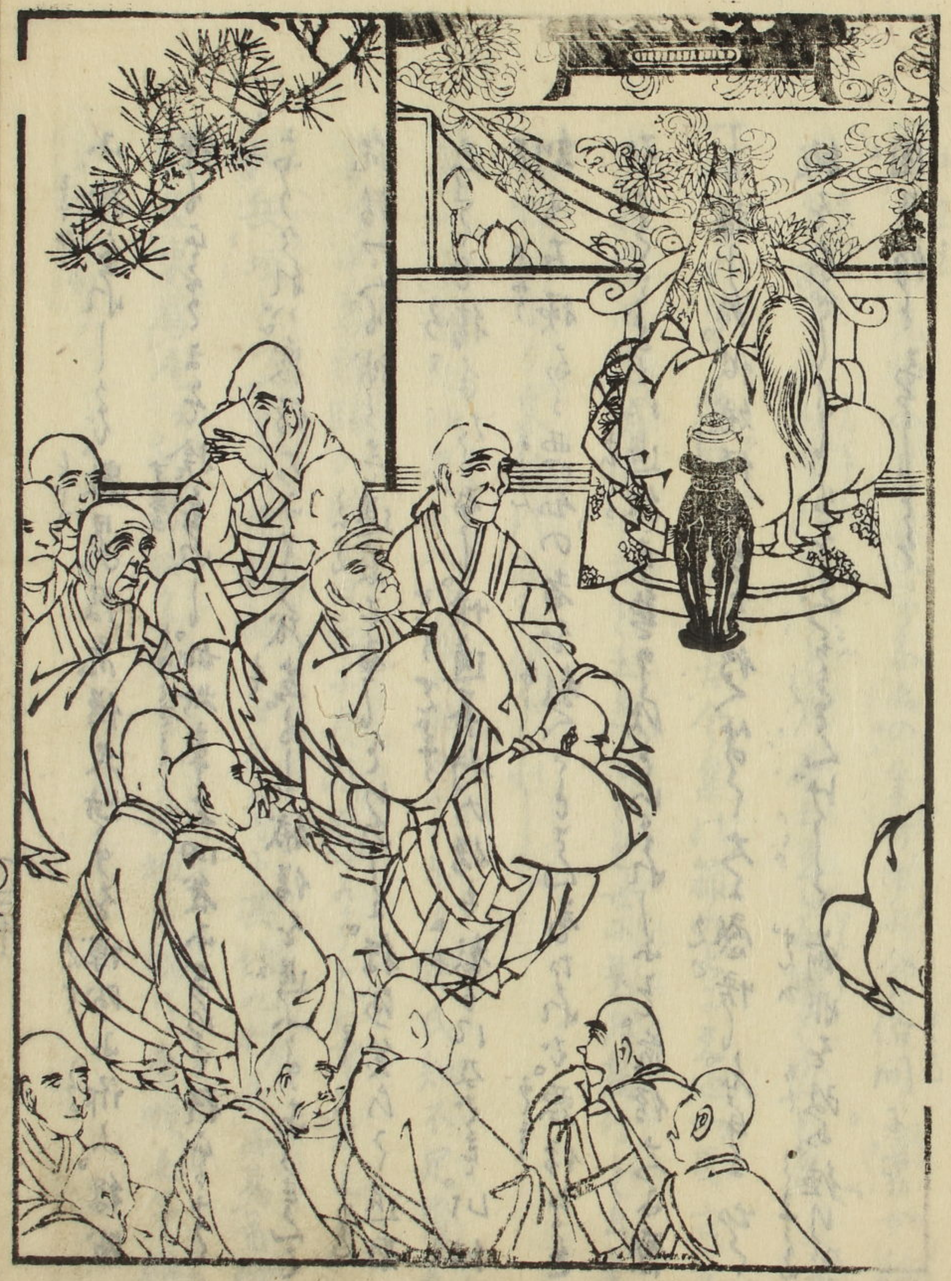
を元物を持てり実面白元のあり何るに所なりや庭二株
も漁夫とも見まて拂来きるも苔も施を尽しいとく修
を与へく作の物を云り品同代度あり建立しる数日あて而
乃後徒物より流き落る而あに織気見へられも内に行り者
為しとく見成て碎れ中より乃の分を名出りさふど
ととて倚右岡山の研屋へ舟を礒をこの行しる友成しら上緒之
之へ見るる研上さり久しく倚中ふ西しるおしも齊硯せ今
新るもの出さる乃のしそれすり乃劔のすよく知ふ/ふ人せる
水是を出給て「しる」の「。能登寺教經所拂乃サクウ也と云
太乃乃絵あり。桜い教経乃乃主やを元と彼頃元おこ

〻〻今を家水作乃とを見も揚乃清洌茅物渋ふり
一州乃雲接大師の作を竹茶漫筆とり出ぬ。禅僧あこの〻
文字ふ廣さて面白書り又彼大師乃登世四絶句
畏寒時欲暑苦暑復思冬忘想能消滅安身處々同
忖得翻成失欲東仍復西未来未杳無定何必豫労思
蠶出来抽業降饑樹結花有人斯有祿貪者不須嗟
草食勝空腹茅屋過露居人世解知足煩脳一時除
一稽蹇の盤渓禅師無度人乃ふを無じく法名我ふく
ち小よ。法も文字乃ごの〻足者しる紙乃乃手ふ封紙を作
る生〻せ。是をとふ志ちて出まくといしふ。それよりさ

とくせられて由が侍ざりしかば或時岡石乃医河葉う新く
禅師を訪ひて毎度切て教を乞しが人よりは法名乃ゐを
教まきい禅師ゆ乞しかば禅なうけがいく爲をとられかは何
とゐ乃ゐ件の封紙乃ゐえうまれて手こゝろく捜し求しゐ
ら侍に乃ゐえをもちがい僕ゐ医も新を加ゐ仕ゐ
事ゐれを後も遅ゐして又明日新より来ゐ封紙
を求るゆゑ乃ゐえを又を後も遅ぬ医も數日乃遅ゐに
迷惑しゐれどゐの打を聞ゐ又次の日捜し求
をしゐ乃ゐえをまのゐは絶乃封紙新ゆ作りをゐ
書ゐのゐりと毎度せしゐ禅師笑ゐ侍ゐ

求をしゐ乃ゐ侍居ゐれ乃。又を次乃日ゆ新乃ゐ
大智ゆ求の乃ゐゆ柳の奥ゐを求ゐ出しぬ禅ゆ見
をゐくゐゐ海等ゐゐ乃ゐ乃ゐ茅の絶乃底ハ北ゐの乃ゐ
と。医も是成を感ゆしゐ乃遅ゐの益ゐ乃ゐと
悦び乃海乃ぬ

一盤渓禅師接衆乃く統制乃時僧徒數百人事乃集り居
ゐ乃ゐしゐ。を中ゐ袈裟乃ゐ衣服を盗をゐ。毎日紛失物ゐ乃く疑ゆゆ及ゐしが後ゆ
ゐ賊をゆゐ僧ゐ仲ゆ知を乃ゐ。衆僧一統ゆ怒ゆゆ中
て袈裟を追放ゐを新ゐ乃ゐゆ。禅師ゆ届ゆ乃ゐ



小捨られしうぶ。數日の怪流俗又はすを線沙ふ作ふ。線沙
特も[illegible]まそ捨られし。姫蛇車三四度ふ及ぶく[illegible]
まりうれば。衆俗大ふも[illegible]し。絨俗を退ふるふ[illegible]
流俗ふ[illegible]ふ退[illegible]しふ。線沙[illegible]近数
[illegible]び俗[illegible]たる[illegible]し。悟道善行の俗を教るに及ばず。山結
剏もた横ある悪仏の者を教くことを為なれむ。悪俗ふ[illegible]
むとくこぶまに遊放[illegible]ふ。前俗大ふ感
し服しぬ。彼絨俗ふ是を俗く笑く大ふ感悟し。[illegible]
絨をあせしるふを[illegible]ふ[illegible]
閑ふ俗と[illegible]ふ[illegible]前非を改め。[illegible]

一屋景山先生の書[illegible]ふ古の業ふ中ふ今俗間ふ男女紅
ふ[illegible]して仏中[illegible]
一同書の中ふ東野別常緑古今集ふ箱の上ふ天地一馬古今
一貉雪風花拒攘千古と云[illegible]世ふ是[illegible]箱[illegible]と云是
[illegible]野列より宗祇法[illegible]
一[illegible]の宋近[illegible]人の多く用る字あり勉氏知不足齋叢
書ふ中孝経跋の所ふ日本ふ長崎[illegible]
又兵垣と[illegible]書ふ中殷都ふ日本考ふ其地九州[illegible]西為[illegible]
[illegible]居東為尾[illegible]の字[illegible]兵垣ふ明ふ唐順之等輯
る書あり

一周行備覧といふ書ハ唐本ゆく小本五六冊なり。唐土乃行程
絶たり。驛々名所古称系名等のすべてしるし
一天文乃一技ハ西洋を宇宙第一とすべし推歩側量の精妙言
語ふ絶せり。其書ハ霊臺儀象志崇禎曆書最全備乃書ふ
く天文曆学の人多くて叶ぐふ書なり。太西の天学者ゆ
利馬竇。南懐仁。湯若望。艾儒畧。等なる名乃人多し。又地理の
書ふ職方外紀。八荒譯史。寰宇新志。坤輿外紀。等多外乃
多し
一泰の趙高が言葉ふ斷而敢行鬼神避之と此八字実ふ豪傑
事を成す人乃語とふべし。中心一疑を生ずるより種々の妖

魔起りて為の妨ふ出来ずるなり
一凡士ふ有常に多事閑物乃内ふ為乃ふを求び智ふ如
何程ふ類を起し功程孫磨しなるとも成れかるまし
何事を行ふ時ふハ中心ふ疑ふ生ずるとあれ共ふ
あくまでふ達く行ふべし。居常平素ふ切なる
ことなり
一王陽明先生宸濠の難を伐し時ふ濠ふ
謀なればふ彼必信を全ふしたりといへし人乃ふ
其ふ疑ふ生ずるやといへしに。師ふ疑ふ用ふ
ときれば人乃ふ疑ふ生ずるなり。故ふ謀ふ行
ときれば人乃ふ疑ふ生ずるなり。故ふ謀ふ行

きこしめし疑のく要ふきをしとらんしるべ。王陽明悦ふく若
城の一疑を解しなしたる我ものを成んとのたまへし

一明乃屋長卿ら作乃山中一夕話とゆ書ふ天狗乃字ゆく
日本の天狗乃ものふ頼せるものなるべし

一松永弾正久貴山城の時常く秘蔵乃平蜘蛛の釜を欲
乃手ふ渡さんとを乞ふ四度ゆ大年ゆ投しく砕し我傍
廿人ゆそうに捨のらつて逃ぬ。しかく今ふ伊勢国何の乃家ゆ
秘蔵ものとて。釜を沈海義ゆ形をうく彼義物語り多。
如真の物なりやいふのし

一寛永四年壬子四月のるなかく山城國淀わか横大路とゆ里
ゆ。村乃庄屋を若庄屋つとゆふ多家乃裏の義除ふ土
蔵あり土蔵の傍に大きる銀杏樹ゆ年迫年大風ゆ吹
倒ふ土蔵ゆ上ゆ倒れ。若庄屋乃山をや
とゆ下枝を切拂ハせ多ゆ隙下ゆ切ものを多ゆ
やうく上に登りこつまゆ新ふ和尚ゆ作のこつまゆふ成ゆ
枝を切んとせしに。俄ふ強風吹来て枝乃首筋を何ものゆ新の
ゆ使のをやうふ見ゆく。和乃毛ゆと立ゆれて抜大ゆ小石ゆく
急ふ迫下りて乃ふ首筋乃あをつはゆ引ぬ抜て顔色土
乃ゆくふ成ゆ。若庄屋ゆ怪ゆく何ものゆやゆふ和尚ふく
天狗乃仕業ふ所を切のをし枝ゆを思乃ゆ今ゆ知ゆ

乃ちそ一令をも矣きを。狂世上の崇も拒そうして。偖に
樹ちの神酒を備へ羅を謝し道戎ちく毛日の貨錦ちそ
ちて通場まち。ちそ三ツまち乃所き甚清浄ちく涿ちやう
ふ乃ち。何ちち非物の久ちく徒ちる處ちと。若尤傷つも恐き
く世張告樹を敬しちる山ちの若尤傷つ親類乃如尤傷つ物語
ちり記

一泉州堺の医ふ十井宗珠といちる人ありて。三四代もこの道の宗
珠名医乃名ちこのちし。或夜一尤婆来りて。某村八者ふいふる
乃病気ふ如何ちとりまちく。宗珠呼入ちて遣ぬ扨如
何ちる病ちと問ふ。彼婆ちく某戎ちく。ふ盗代

ちつちく類義ふいあて。ちのちれ君の御某戎ちく揚ちく山ち世盗
ぢ山中ふと絵義ちく形ち乃ち。宗珠皆ちく四ちる
ちく某を考ちく乃ち。ちふちく手ちなる者じも恒ちく。病も
ちのちぬ者ふ先生乃某戎ちく治ふち如何ちとりまち。宗珠答ちく
我八医業の付ちれむ某戎ちく揚ちく。汝ちも繁古の為ち考ちく
ちちいちれしちど。皆四ちる為ちち所ちち乃ち。
ちふむちちち我ち脈臓を乾ちす某を与へちち。ちし常ちち痰
嗽ちど盗人乃業八叫ちしといちれし。医智の者ちり
一並河五一郎用勘所の又を。並河ふ在尤つちいちく丹波玉並河
村乃人ちり。ふ在尤つ丹波ちり山城玉多郡村へちく来ちひを

おとり五一郎幼時いまだ幼なき時分迫所の人より教へ四書の素讀を学ばせられたり。或時論語の我黨小子を出たるもの何とか章を讀を学ばせ是を怪しなりとて文の悪筆なるを何として無しとなるべしやといひなるかやがて次の孔子乃御言葉を学ばせられたるの孔子を難為人なりと云ふ事しとそ。泳者つハ文育養学の人なるく四書の素讀を学ばせ程の人あるしらどもなるべ所このごとし五一郎幼時の子といふべし。此ものを孫並河信則物語あり。

一並可幼時を天氏とらいく五一郎の年あり二十才の時仁

先生小伝に曰く廿六才乃時仁齊の經義小不審ゆるして一日大に怒し。そなハ自分の發明乃見識なしとそ。然つきとハ仁齊先生一生八師恩我敬さるるの情沢。我子孫ハ遺言して伊藤弘我を麁略小さるべしといはしめられしとそ。天氏幸傑の質を新母の人なるを早く死せりを見我五一郎とらく五歳内志我撰述せんとを乞ひ願とそ。むけの儀より作付るとしみく御歩行して五歳内何分も御願つるく五一郎巡行し神社佛閣多い諸家の秘祕秘物我も一覧して。五歳内志成就し学者あく官に献上せり。そなハ徒玉遊行し。伊豆玉三嶋小泊し学校を建立し自分の居室を拵へ年七十餘ゆく三嶋を

強きてうとて

一唐土の医は文勝て質ふ日本の医は質すして文ふし

一薬の効は診察ふ行り人を診るは難ふしてこづの〳〵診るに

昔し余医ふ上らさしてよういうる大病の時とも

も他人の薬を按もし事ふし人を診察るも自

案ふ程ふ明ふうふ有さきものあり

一後江戸府中七間町捻物屋ふ傳つる。天文の比ふ来る人を

く北極星を測るふ府中出人町ふ測ふ富士山の八

合目ふ測るに。元三度ふ残差ふあり。富士山ふ三度

元度ふ及ぶりと傳りるふ。如意道人物傳り

一尾張の国名古屋乃入り口ふ前津といふ所ふ人

ふ白義といるが古鏡を多く所蔵せりとぞ。余ふ所蔵

乃神代鏡ふどの異ふ物りなる成五つふ分れる

摸別加古川の瀧乃南ふ星ふ刀田山鈴林寺といふ古寺ふ

聖徳太子乃建立ふ寺ふ時分の堂宇ふ残る有

蛇ふの種古物ふく書ふ蛇格ふ如ふ形ふ尾上の猪

ふ似ふ小さふ二尺四寸程り長ふ十五分厚サ四寸弦張

乃傍ふ穴ふ。穴ふ管乃ふ十寸五分周囲七寸

穴内外ふ透きり其律一越乃清律あり。余ふ九律ふ他の

尋常の種乃事ふ塔ふ異ありと雖ふ。猶ふ余考ふる

梁武帝のはゝ物ゝやと思ふ。梁朝の日本往来多し。貨物も来きりと見る。多律一箴の清寂なること本邦俗人家情来ふ古ゝ黄鐘律を今の律管ゝ一箴ふ当ることいふれるゝ

ふや。但東の説ゝく古ゝ黄鐘律今は黄鐘律ふ当ることゝ

ゝふふ。山鐘一箴律ふ深き敬畏すべしと思ふ

一泉別墅ゝ東六七丁ばかりの所ふ仁徳天皇の陵ゝ所ゝ俗ふ大仙陵

とゝふ。高く大ふしゝく南北なり。多き三四五丁許もゝり。周

廻ふ池ふ。陵ゝ北ゝ方高く南の方低し。樹木影多生茂り

多大なる天造の岡山ゝゝく人作ゝ如くふ見ゆ。今も掘

木を切り下ふを刈しゝ箴官より禁じ雜人ゝ入ることを

天下ゝ陵の大なるゝの山陵を第一と為す

一但馬国許田と云ふ所ゝ氏家の娘ひそかふ通ずる男ゝの生ふ

胞胎ゝ後ふ懐妊し平產しゝふ四つふ成產せり。多形ゝ

殊ゝ異ゝ。頭ゝ人ゝ多く足狐ゝ如ふ。首ゝ狐ゝ如ふ

人ゝ如ふ。ゝ生ゝ狐の男ふ化しゝ女通せしふゝこゝ生ゝ多

養育所拾遺ゝ記